

佐野美術館創立55周年・三島市制80周年 記念

名刀百花

展覧会名: 佐野美術館創立55周年・三島市制80周年 記念 名刀百花
会 期: 2022年1月8日[土]～2月13日[日]
会 場: 佐野美術館
開館時間: 午前10時～午後5時(入館の受付は午後4時30分まで)
休 館 日: 木曜日
入 館 料: 一般・大学生1,100円 小・中・高校生550円
* 毎週土曜日は小中学生無料
主 催: 佐野美術館、三島市、三島市教育委員会
後 援: 静岡県教育委員会
助 成: 三島信用金庫
協 賛: 伊豆箱根鉄道株式会社

展覧会の趣旨

佐野美術館は、2022年1月8日[土]～2月13日[日]に、百花のごとくそれぞれに魅力を放つ名刀を紹介する展覧会を開催します。

悠久の時を超えて輝く日本刀。日本刀が誕生した平安時代より、時代を代表する名匠たちが現れ、各時代を象徴するかのような名刀を世に残しました。良質な鋼と鍛錬による澄んだ地鉄、刀工の個性が光る刀文、その美しさは観る者を魅了しつづけています。

本展は歴史の中で華やかに咲いた日本刀、約60点を紹介します。

展覧会のみどころ

日本刀は武器でありながら、日本文化を表徴する美術品です。摩訶不思議な由緒や、持ち主の名前をおりまぜた独自の呼称を持ち、その名が文化的背景を物語ることも少なくありません。

本展は、長篠の戦いで功を賞し織田信長が奥平信昌に下賜した「長篠一文字」、疱瘡快癒の祝儀として徳川将軍家に代々伝わった「疱瘡正宗」、トンボが先にふれて真二つになったという本多忠勝の名槍「蜻蛉切」など興味深い号をもつ刀剣をご覧ください。

「名物 松井江」は、四半世紀ぶりに刀と拵が巡り合います。「松井江」の名の由来である肥後国八代城主松井家で大切に保管されてきた朱漆塗りの打刀拵です。

「おそらく」と刀身に彫られた駿河国島田の刀工助宗の短刀にもぜひご注目ください。鋒が非常に長く鋭い特徴的な形状で、後に多くの刀工がこれを模し「おそらく造り」と呼ばれる形式となりました。「おそらく」と彫られた確たる由来は不明で、武田信玄が所持したと伝わる謎の多い作品です。

また、この度修復が完了したことを記念し重要文化財の《沈金獅子牡丹文長覆輪太刀拵》を展示します。漆工の技法「沈金」を用いた最初期の作例のひとつであることに加え、沈金で装飾された太刀拵は珍しく、高野山に伝来しました。

展覧会の主なイベント

◆近くで見てみよう、日本刀と刀装具 2022年1月10日(月・祝) 14:00～15:30

※新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、展覧会やイベントの内容を変更する場合があります。

広報用画像

本展の紹介記事等を掲載される場合には、1～7の画像と、展覧会チラシ掲載の画像をデータで提供できます。メールまたは電話かFAXでご連絡ください。

※画像掲載をする場合、作品クレジットの明記をお願いします。



1. 重要文化財 沈金獅子牡丹文長覆輪太刀拵 室町時代 個人蔵
2. 国宝 太刀銘一 鎌倉時代 個人蔵
3. 重要文化財 刀無銘正宗 鎌倉時代 佐野美術館蔵
4. 大笹穂槍銘藤原正真作（号蜻蛉切） 室町時代 個人蔵
5. 重要文化財 刀朱銘義弘／本阿（花押（名物松井江） 鎌倉時代 佐野美術館蔵
朱塗鞘打刀拵（名物松井江の拵） 桃山／江戸時代 一般財団法人松井文庫蔵
6. 短刀銘助宗 室町時代 個人蔵
7. 重要美術品 短刀銘藤原国広造／沢田道門所持 桃山時代 個人蔵

お問い合わせ

佐野美術館 広報グループ 深沢・西脇

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43 TEL 055-975-7278 FAX 055-973-1790

URL <https://www.sanobi.or.jp/> EMAIL koho@sanobi.or.jp

※新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、展覧会やイベントの内容を変更する場合があります。